



名古屋いのちの電話

1995年度 事業報告



写真 文珠 幹 夫

優柔不断

銀色 夏生

優柔不断が欠点だった

あの人はいつもいいかげんに見えた

だからこそやさしくて

だからこそ愛されやすかった

許して受け入れさえすれば

こんなふうに人に必要とされるように

なるんだと私は感心した

あの人には目の前のことしかなくて

それでいいのって聞いたら

それでいいと笑った

それから 楽しいのって聞いたら

楽しくないかもしれないと言った

いつも楽しくないのと聞いたら

どうしてそんなこと聞くのって言った

どうしてかわからない

私は今も優柔不断な人に憧れる

微笑ながら消えていく

(角川書店刊)より

命のそばに

安達 寿孝



主われを愛す、主は強ければ、
われ弱くとも 恐れはあらし、
わが主イエス、わが主イエス、
わが主イエス、われを愛す。

世界中で親しまれているこの讃美歌は、アメリカで日曜学校が盛んになっていた1859年に、アンナ・ワーナーが作詞しました。この歌詞の背景や意味をR. リン&E. ライト著『大きい小さな学校：日曜学校200年の歴史』（1971）より紹介し、「いのち」について考えてみましょう。

アンナと妹のソーザンは、ベストセラー小説の作家であると共に、日曜学校の先生でした。その彼女たちの小説『ことばとするし』の中で登場する人物の日曜学校物語が、この讃美歌の内容です。

かわいいフェイスは、熱心な日曜学校のジョン・リンデン先生に、とても愛されている女の子です。また生徒の中には、ジョニーという男の子もいます。この三人が物語の中心となります。

ジョニーはたいへん病弱で、先生やフェイスの励ましにも拘らず、まもなく死を迎える定めにあるようでした。大きなリンデン先生が「何かしてほしい」と彼に尋ねたとき、小さなジョニーはやせ細った両腕を挙げて、「きのうの夜のように歩いて」と言いました。

先生は高熱の彼を抱き上げ、静かにあたりを歩きます。しばらくの間静かであったジョニーは、まもなく「歌って」と短く言ったのです。いまにもこわれてしまいそうな彼を抱きしめて、先生はジョニーに新しい歌を優しく歌い始めました。少女のフェイスはその言葉をはっきりと聴き取っていたのです。

主われを愛す、主は強ければ、われ弱くとも、
恐れはあらし。……
みくにの門を ひらきてわれを、招きたまえり、
いさみて昇らん。……

しばらくして、先生はジョニーの大好きな「ヨハネの黙示録」から聖書の言葉を読みました。しかし、その前に先生はフェイスに、「最初は、私たちが彼に道を教えようとしていたのに、いまは彼が道を私たちに示しているね」と語りかけていました。

少年ジョニー・ファックスは、この歌や、聖書の言葉を聴きながら、みくにへの道を静かに昇りはじめ、旅立っていたのでした。

命の灯が消えようとするまさにその時、「われを愛す」として、いまも自分を必要としている人がいてくれれば、まことに「恐れはあらし」となるでしょう。その上、新しい命の歩みの道に、大きく開かれた門があり、招いてくれている人がいるのです。その時ジョニーは、「いさみて昇らん」と、喜びをもって新しい旅路を進んで行ったことでしょう。

人生のどんな時にも、愛してくれる人、自分を必要としている人が、身近にいてくれれば、こんなに嬉しく幸せなことはないでしょう。ジョニーは「主われを愛す」と聞いて、〈愛されている〉ことを実感しつつ、すばらしい旅立ちをしたでしょう。

この歌詞が讃美歌になったとき、作曲をしたブラッドベリーは、“Yes, Jesus loves me…”とのコーラスをつけ加え、みんなで声を揃えて合唱するようにしました。「そうだそうだ」「わが主イエス、われを愛す」と人々は声を高くして歌いました。

ジョニーのそばには、リンデン先生の体ごと与えてくれた温かさ、フェイスの傾聴して見守ってくれた心があったのです。また、なによりも新たに招いて、待ってくれている人がそこには居たのです。

（なお、讃美歌は日本語訳のみを採り上げました）

（金城学院大学教授）

友人の精神科医によれば、うつ病になって精神科を訪れるサラリーマンが増えているそうです。同じうつと言っても、大まかに言って2つのタイプがあるそうです。社会的責任から逃がれるように出勤できなくなるタイプと、責任を負い過ぎて精神的に疲労困憊してしまうタイプです。前者には30代前半位までのサラリーマンが多く、後者には50代位の中年サラリーマンが多いそうです。殊に、中年でうつ病に罹る人は、几帳面で形式を重んじ、人に気を使う仕事熱心な人が多いとか。

昔から青年期の心理については盛んに研究されてきましたが、中年期の心理については、近年になって、やっと関心が高まってきた感があります。青年期までは自立を目指してひたすら昇って行けば良く、理想に燃えることも許される面があります。それが、中年期になるといわば下降線をたどり始めます。体力の衰えが気になり始める一方で、社会的・家庭的責任は増大して行きます。それらの責任が動かし難い現実として目の前に立ち現れてくるのです。自分としてはすでに限界を感じているのに、次々と引き受けるべきことが出てくる感じでしょうか。こうした重荷に耐えかねて心が疲弊してしまうと、うつ病になってしまいます。ただ、体力は下降線をたどりつつも、心の深い所にある何かは上昇を求め始めるらしいのです。河合隼雄さんは中年後期の人の夢で、「綺麗な夕日が沈むのを見ていて、振り返ると東の空に別の太陽が昇ってくる」というのを報告しておられます。この下降と上昇の統合ができれば、その人の人生の後半は味わい深いものとなるでしょう。そうした統合に至るまでの準備段階としてうつ病があるのかも知れません。どうも中年期というのはうつ病と近い時期であるようです。

さらに、今の50代から60代の世代というのは、いつの時代にも、他の世代より高い自殺率を示してきました（もちろん自殺とうつ病は深い関係にあります）。この世代は第二次大戦中から

戦後にかけてこの世に生を受け、個人的生活の心細さを背景に持ちつつ、日本経済を守り立てるための社会的規範を遵守してきた世代と言えるでしょう。自分と一体化するほどに仕事を大切にし、容易ならざる問題・責任を一身に引き受けることを美德として、頑張り続けてきた世代とも言えるでしょう。社会的責任から逃がれようとするタイプとは大違いです。今の私たちの経済的に豊かな生活は、この年代の人々によつ

てもたらされたものです。しかし、今述べたような、真面目で役割（仕事）と一体化となる性格傾向は、精神科領域で言う「メランコリー親和型性格」、即ちうつ病になりやすい性格でもあるのです。

こうして考えてみると、この世代のサラリーマンは、中年期の発達課題という点でも、育ってきた時代背景の点でも、うつ病に親和的なものを背負っていると言えそうです。まあ、どの世代でもそれなりの困難さを背負っている訳ではありますが…。

そこで、この世代の女性の自殺率に目を向けてみますと、他の世代の女性と比べて、高い値を示してはいません。この世代が青年だった頃は、女性も男性同様、他の世代より高い自殺率を示していたにもかかわらずです。もちろん、中年期の危機は女性にも訪れることは間違いありません。とすると、この世代の女性たちは何かに気づき、自分たちなりに生き方を模索できているのかも知れません。

もしそうならば、男性にも模索の甲斐があるうらというものです。男性が混迷の中にとどまったままで、女性だけが幸せになれる訳でもないでしょう。男女が共に自らの危機に取組み、これからの人生をより豊かなものにしていくしか道はないように思えますが、いかがなものでしょうか。

（研修スタッフ・愛知県立城山病院 臨床心理士）

中年サラリーマンの ゆううつ

山田 勝



1995年度 事業報告

開局10周年に当りましたこの年も、愛知のちの電話協会の電話相談活動に、かわらぬご支援を賜ります賛助会員、賛助法人並びに寄付者の皆さまに、心よりの感謝を申し上げます。又一年を通じて休みなく奉仕を続けて頂きました相談員の方々の労苦にあらためて敬意と感謝を申し上げます。ここに1995年度の事業報告を記述させていただきます。

理事会報告

記念すべき開局10周年の年に当り、先年来準備致して参りました、10周年記念事業を実施する上で、関係委員や相談員有志の方々のご奉仕により、年間を通じて、何回かの大きな盛り上りを経験することが出来ました。又これらの企画を通じて、いのちの電話の存在とその活動をいささか、地域社会に印象づけることが出来ました。10周年記念事業は次年度に全国研修会を名古屋で開催することが残されています。11月14日～16日、名古屋国際会議場での開催を目標に、会の総力をあげての準備が進行中であります。次の10年に向けての新しい飛躍と充実のためのエネルギーが養われ、蓄えられることが期待されています。

相談員養成講座はこの年度第9期を実施致しました。又このかたわら、相談員の継続研修、スーパービジョンに今年度も、例年同様力を入れて実施することが出来ました。ボランティア相談員諸氏の熱意と訓練指導に奉仕頂く講師の方々のご尽力にも深い感謝と敬意を表わす次第であります。

電話相談受診件数は年間12,572、開局以来の総受診件数は132,936('96.3月末)に達しました。阪神地方の災害や、いじめの問題への憂慮もあって、いのちの電話への社会の関心や期待も益々深まることが感じられます。

深刻な不況が強く経済環境の中にもかわらぬ資金の上のご支援をお寄せ頂きます個人、法人並びに団体の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

10周年記念事業報告

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 10周年記念感謝会
日 時 1995年10月27日(金)
場 所 アイリス愛知
参加者 160名 | 3. 10周年記念プラス・コンサート
日 時 1995年11月4日(土)
場 所 名古屋港湾会館
出 演 野村 勤
(フルート奏者)
新日鐵名古屋製鐵所
吹奏楽団
岡崎吹奏楽団 | 4. 10周年記念基金募集
期 間 1995年7月～
1996年6月
目 標 3,000万円
1996年4月末日現在、
21,043,344円
寄付者のご芳名は、本紙No.
33,34,35号に順次掲載させて
頂きました。 |
|--|---|---|

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長 相馬信夫
理事 豊田寿子、笠原嘉、西沢信正、長岡利貞、水谷 巍、木本精之助
監事 内河恵一、小山 勇
評議員 笠原 嘉、川原 恵、木本精之助、豊田寿子、西沢信正、長岡利貞、
向田正俊、鈴木郁雄、高山貞美、水谷 巍、渡辺宜親、渋澤治子、
安藤和彦
常務理事 木本精之助

総務委員会報告

24時間体制にむけて

電話は新しい人間関係を生み出しました。相方覆面のままの闇の舞台。そこでは誰でも、秘薬なくしてハイド氏になれる。おとなの分別をそなえた厳格な父性の持主が未熟な子供を堂々と演ずることのできる舞台を提供してくれる。110番、119番も翻弄させるこの名優たちをわが電話は拒まない。

24時間受け止めようという相談員の意欲は年々高まってきています。この開設以来の課題を今年こそ、と検討してきましたがついに手がかりをつかむことができず、申訳なく思います。

引き継ぐバトン

人間の群れは50人位が限度で、それを越えるとはみ出し者が出る。肉食動物の生存の知恵というべきもので、いじめのおかげで人類は南米の端まで分布することになるわけですが。そういえば10人程度の会では役員選出から会の運営に至る迄もめることはほとんどありませんが、多人数の組織では、みんな善意に基いて発案し、献身的に奉仕しているはずなのに、なぜか不協和音が生じ意志の疎通を欠く。

いのちの電話でも、各都市の様子を聞いても相談員が100人が200人、300人になれば機能が倍加し、負担が半減するかといえ、どうもそうではないらしい。

名古屋では特に相談員の自主的組織活動が活発であり、来る全国大会のテーマにもこの組織問題がかげられることになりました。

会員拡大と募金

不況ということで募金も伸びなやみ、また相談員の紹介による賛助会員拡大も紹介者が底をついてきました。しかしそうした社会情勢にもかかわらず、豊田募金委員長をはじめ東海銀行の鈴木委員、木本常務理事らの奔走によって大きな成果を生むことができました。向田財務委員長の紹介によるバザー献品も新しい糸口になるでしょう。

10周年記念事業にむけて、総務固有の課題というより全体の動きにそれぞれかかわってきた一年でした。

総務委員長 水谷 巍

訓練委員会報告

☆9期養成講座は昨年4月から始まり、「いのちの電話の精神」の講義を最後に1年間にわたる全課程を終えました。当初の応募者は例年より少なく、27名でした。面接の後、研修は20名でスタートしましたが、途中病気あるいは家庭や仕事の事情による辞退者やその他で15名が修了しました。

京都では毎期200名の応募があるとのこと。募集方法などに検討を加えたいと考えています。

養成講座の内容は体験学習による人間関係基礎訓練、ロールプレイ、講義、電話相談実習などとなっております。人数が少なかった分だけ受講生相互の仲間意識は強く、熱心に参加されました。

☆既に認定を受け、相談員として活動している1期～8期生の方たちは年1回のスーパービジョンと毎月1回(年間10回)の継続研修が必修となっております。スーパーバイザーとして心理臨床の専門家33人の方々が個別の指導に当たってくださいました。継続研修ではテーマ別に14のグループに別れて研修を行いました。その他にケース研究会、登録更新のための研修会も行われました。ここでは1年間を振り返り、相談員としての自らのあり方を問い直すと同時に次のねらいに向け、心あらたにしています。

ボランティアながらもいのちの電話が担う社会的責任は大きく、相談員の資質の向上が常に求められています。

☆各種の電話相談の開設が続いています。簡潔にしてかつ安価な電話という用具は、また同時に問題をはらむ道具でもあります。電話相談では何ができ、また何ができないのか、ますます厳しく問われることになってきます。かかってくる電話の件数(量)は、電話相談の一部にすぎません。要は応答の質の向上です。

最近、行政機関が行っている電話相談について、意見が出はじめています。やがて厳しい批判もでてくることでしょう。私たちは電話相談の「倫理」について厳格であることをひそかに誇りとしています。今後ともこの精神を持ち続けたいと思います。

訓練委員長 長岡利貞

財務委員会報告

1995年度の収支をご報告申し上げます。昨年度のわが国の経済は、後半に入り漸く回復の動きが見えて参りましたが、個人所得は金利低下もあり、きびしい状況が続きました。

当協会は創立10周年に当ることから、この機会に基金募集を7月より実施致しました。このため法人の会費、賛助寄付に多少の影響があったものと思われます。フリーマーケット、コンサートなどに特別のご協力をいただきましたことに心より

お礼申し上げます。

当初の予算に対して、収入の部では、予算の2,164万円に対し1,899万円にとどまりました。助成金は52万円の増加がありました。支出の部では、全ての支出を押え1,607万円に圧縮致したので、繰越金は126万円の減少となりました。10周年記念基金募集に特別の支援を頂くことが出来て意義深い年となりました。

96年度予算につきましては、前年度の収支を検

1995年度収支計算書

借 方 (支 出 の 部)		貸 方 (収 入 の 部)	
科 目	1995年度決算額	科 目	1995年度決算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	2, 745, 032	助成金	1, 220, 760
広報費	655, 000	共同募金配分金	700, 000
調査・研究費	119, 000	会費(法人)	4, 914, 794
渉外費	0	会費(個人)	0
特別事業費	1, 390, 883	賛助会費(A)	1, 670, 000
職員給与	5, 040, 000	賛助会費(B)	815, 000
賞与	1, 470, 000	賛助会費(C)	612, 000
賃金	0	協力会費	0
退職金	233, 750	相談員の会費	133, 000
法定福利費	78, 076	寄付金(個人)	860, 483
福利厚生費	0	寄付金(団体)	1, 289, 890
退職引当金	0	年末募金	852, 327
旅費・交通費	816, 640	後援会(個人)	0
通信費	384, 286	後援会(団体)	0
電話料	251, 029	特別事業収入	1, 297, 934
印刷費	334, 116	講座受講料	988, 010
事務用品費	32, 548	基金募金収入	50, 000
会議費	86, 679	事業外収入	675, 270
郵便振替負担料	39, 160	繰入金	0
支払手数料	16, 488	引当金戻入	0
連盟負担金	261, 000	設備資金借入収入	0
諸会費	17, 000	積立金戻入	0
共益費	1, 440, 000	受取利息	648, 733
水道光熱費	960, 000	雑収入	26, 537
消耗品費	164, 293		
備品費	0		
営繕費	62, 000		
租税公課	42, 763		
拠出金	0		
保険料	0		
雑費	64, 533		
事業外支出	635, 043		
元利償還金	0		
支払利息	0		
繰入金支出	0		
雑支出	72, 075		
固定資産取得額	0		
積立金繰入	0		
基金繰入	562, 968		
小 計	17, 339, 319	小 計	16, 079, 468
前期繰越剰余金	4, 392, 048	前期繰越剰余金	4, 392, 048
当期剰余金	-1, 259, 851		
合 計	20, 471, 516	合 計	20, 471, 516

討し、関係各位のご意見をいただき、前年度より163万円減額し、2,001万円、基金繰入として233万円を計上致しました。

収入の部では、寄付金70万円、講座料63万円、年末募金は10万円を減額致しました。

これらに対して、支出につきましては、印刷費(10万円)、通信費(25万円)を減額しました。

この他連盟負担金は27万円となりました。

全国研修名古屋大会が開催されることに伴う、

予算につきましては別途会計とし、県と市よりの補助金を受けられることも決定致しました。この他、篤志の寄付を仰いで、本会計に負担のかかることの無いように配慮致します。

会員各位におかれましては、本年度の財務運営につきまして一層のご理解を賜り、ご協力をお願い致します。

財務委員長 向田正俊

1996年度予算

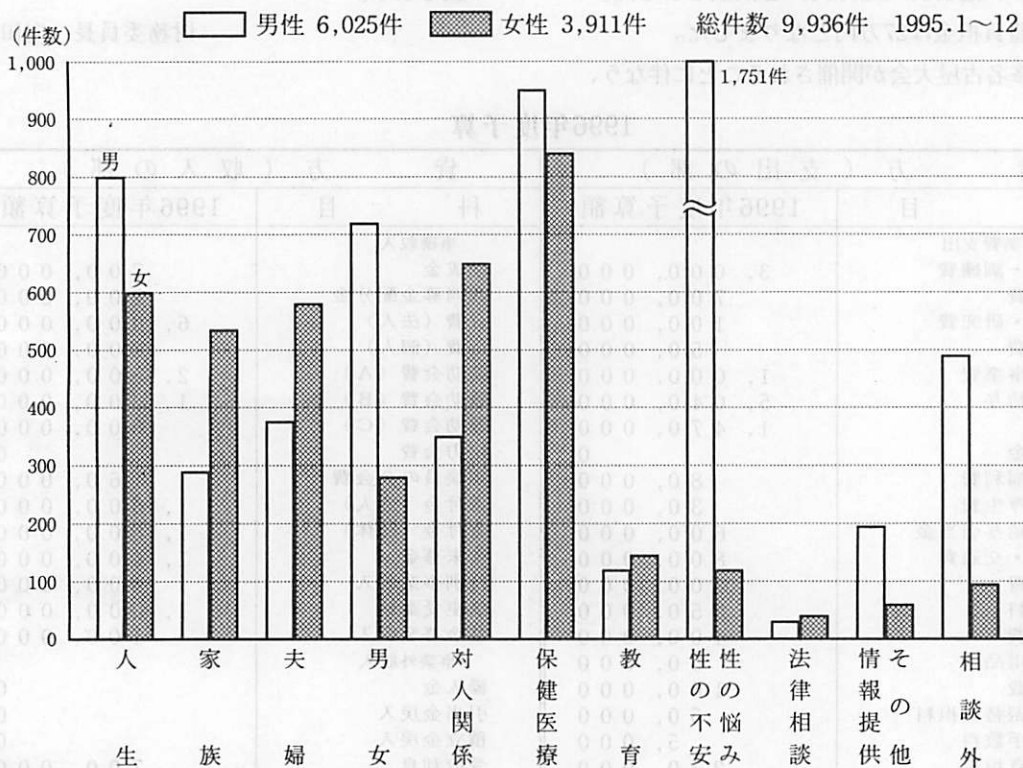
借 方 (支 出 の 部)		貸 方 (収 入 の 部)	
科 目	1996年度予算額	科 目	1996年度予算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	3,000,000	助成金	700,000
広報費	700,000	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	100,000	会費(法人)	6,000,000
渉外費	50,000	会費(個人)	200,000
特別事業費	1,000,000	賛助会費(A)	2,500,000
職員給与	5,040,000	賛助会費(B)	1,300,000
賞与	1,470,000	賛助会費(C)	800,000
退職金	0	協力会費	0
法定福利費	80,000	相談員の会費	160,000
福利厚生費	30,000	寄付金(個人)	1,600,000
退職給与引当金	600,000	寄付金(団体)	1,800,000
旅費・交通費	800,000	年末募金	1,400,000
通信費	700,000	特別事業収入	900,000
電話料	250,000	講座受講料	1,000,000
印刷費	400,000	基金募金収入	100,000
事務用品費	50,000	事業外収入	
会議費	100,000	繰入金	0
郵便振替負担料	50,000	引当金戻入	0
支払手数料	5,000	積立金戻入	0
連盟負担金	270,000	受取利息	700,000
諸会費	20,000	雑収入	150,000
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
消耗品費	150,000		
備品費	50,000		
営繕費	100,000		
租税公課	50,000		
拠出金	100,000		
保険料	20,000		
雑費	95,000		
事業外支出			
固定資産取得額	0		
基金繰入	2,330,000		
小 計	20,010,000	小 計	20,010,000
当期剰余金 (翌年度繰越金)	0	前期繰越剰余金 (前年度繰越金)	0
合 計	20,010,000	合 計	20,010,000

グラフで見る名古屋いのちの☎

1995年は1年間で9,936件の相談電話がありました。（無言電話2,385件を除く）昨年より297件増えています。

一日あたりの平均相談件数は27.2件となります。

○相談内容男女別の相談件数



いじめ問題と電話相談

1994年の末から1年以上にわたって、青少年のいじめ問題が社会の関心を集めています。そのなかで電話相談のはたす役割が注目されました。

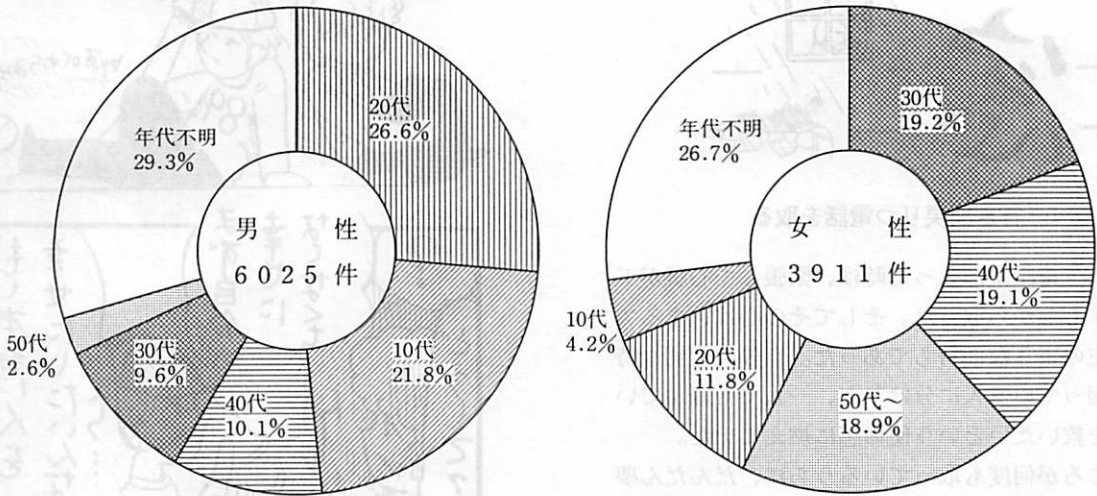
名古屋いのちの電話では95年の1年間にいじめ問題で74件の相談を受けました。過去5年間にさかのぼってみると毎年数十件のいじめ相談があります。そのおよそ半数は小・中・高校生からのもので、残りの半数は保護者からのものです。

いじめ問題の難しさは、誰かに相談することですぐに解決するとは限らない不安をいじめられる側が持っていることです。そのため電話相談は利用しやすい相談だといえます。しかし、電話相談ではいじめに直接介入することはできません。子どもたちにかかわる多くの機関のネットワークづくりが求められています。

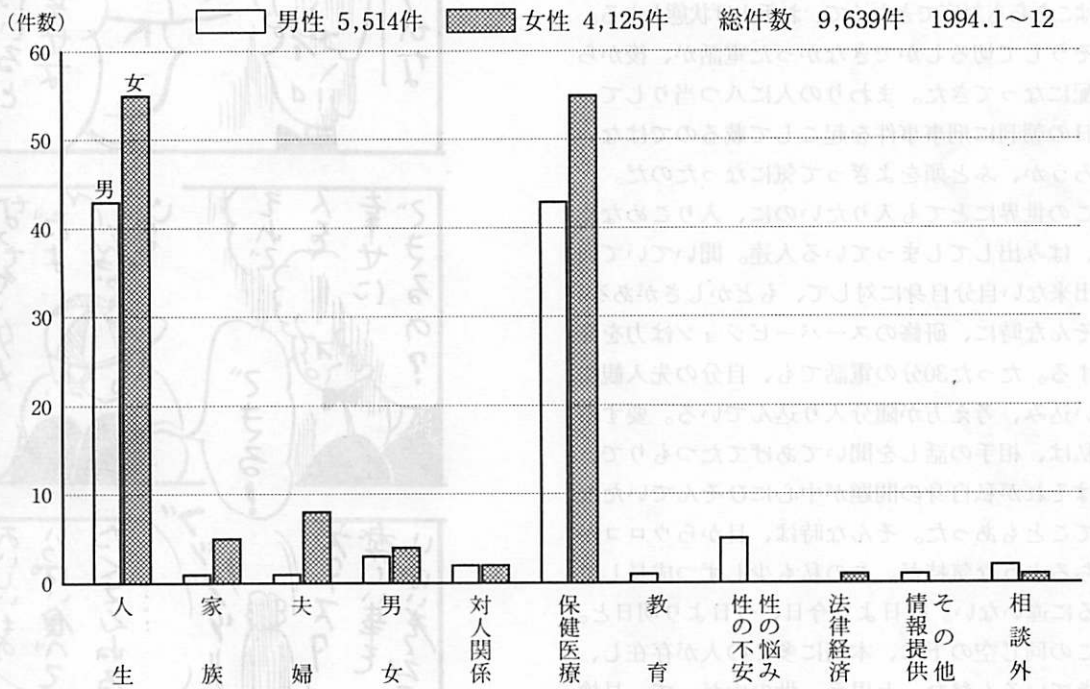
いじめ相談件数

年	件数
91	53件
92	55件
93	84件
94	75件
95	74件

○男女別・年代別の相談件数



○自殺志向電話の相談内容男女件数 (1995.1~12)



1985年から1995年までの11年間の総受信数は、129,545件で、相談員との会話がなかった無言電話31,101件をのぞくと相談電話の受信は98,444件となります。(1995年12月31日現在)

映画鑑賞へのお誘い

日時 7月6日(土): 午後2時より4時半迄 場所 日本カトリック研修センター
(地下鉄鶴舞線杖中下車 徒歩5分)

ジャック・レモン主演「**晩秋**」(1989年作品) 原作:ウィリアム・ウォートン
監督:デイリー・デビット・ゴールドバーグ

祖父、父、子と三世代の絆を描いて爽やかな共感を呼ぶ作品である。どなたでもお気軽に、お出かけ下さい。(無料)

第17回いのちの電話全国研修会 名古屋大会

大会テーマ

引き継ぐバトン ひとりひとりの力

——— みなおそう つくりだそう 新しいいのちの電話 ———

日程 1996年11月14日(木)~16日(土) 会場 名古屋国際会議場

愛知いのちの電話協会日誌

- 1月 6日 全国研修会説明会 I
- 7~8日 近畿東海ブロック事務局会議
- 8日 全国研修会説明会 II
- 14日 和歌山いのちの電話10周年記念式
- 16日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 17日 愛知電話相談ネットワークの会
- 22日 全国研修会準備委員会
- 29日 訓練委員会、ベルの会、合同委員会
- 2月 1日 ベルの会
中日新聞社会事業団より歳末義援会受領
- 5日 全国研修会準備部門責任者会
- 6日 訓練委員会
- 7日 財務委員会
- 9日 全国研修会準備本部会
- 17日 ケース研究会
全国研修会実行委員会
- 19日 評議委員会、理事会
- 21日 ケース研究会
- 29日 全国研修会準備本部会
- 3月 11日 訓練委員会
ベルの会
- 17日 全国研修会実行委員会
- 21日 愛知電話相談ネットワークの会
- 23日 相談員登録更新研修 I
II
- 29日 全国研修会準備本部会
- 4月 1日 総務委員会
- 5日 共同募金会配分金伝達式
- 8日 ベルの会
- 11日 登録更新研修会 III
- 15日 訓練委員会
- 30日 基金募集委員会
財務委員会

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口)
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長 相馬信夫

口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029

郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは…

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

名古屋いのちの電話

事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1996年初夏

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257

1996年6月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会